

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部への
進学をお考えの方へ

音楽基礎科目(ソルフェージュ・楽典・鍵盤楽器)の習熟度を確認できるテスト

OSAKA COLLEGE OF MUSIC

音楽基礎科目認定テスト

[実施要項・過去問題集]

第106回 2026年 8月 2日(日)

第107回 2026年 12月 27日(日)

ソルフェージュ
楽典
鍵盤楽器



建学の精神

世界音楽並ニ

音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ

之ノ学校ニヨツテ統一サレ

新音楽 新歌劇ノ

発生地タランコトヲ

祈願スルモノナリ

音楽基礎科目認定テスト 実施要項

◎はじめに	1
◎実施概要	2
◎受験のための手続き	3
◎テスト実施日・申込受付期間	4
◎テスト当日および結果について	4
◎受験登録申請書の記入方法	5
◎受験申込書の記入方法	6
◎科目別実施要項	
≫ソルフェージュ	7
≫楽典	10
≫鍵盤楽器	16

過去問題集

◎ソルフェージュの勉強方法について	18
旋律聴音 104・105回	21
新曲視唱 104・105回	23
◎楽典の勉強方法について	26
楽典（問題） 104・105回	28
楽典（模範解答） 104・105回	34

テスト受験までの3Step

Step 1

まずは受験科目の確認

自分が志望する専攻に必要な音楽基礎科目を確認。(P.1 図 参照)

Step 2

受験登録・受験申込

テストは年間2回実施。

初回受験時のみ「受験登録」が必要です。

初回受験の際は、必ず【受験登録申請書】と【受験申込書】を同封して受付期間内に提出してください。

2回目以降は、WEBで受験申込ができます（郵送可）。(P.3 参照)

Step 3

いよいよテスト

必ず【受験登録証】と【受験票兼個人別時間割】を持参してください。(P.4 参照)

はじめに

◎音楽基礎科目認定テスト

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部では、音楽基礎科目を音楽の総合的な基礎能力と基礎知識を向上させるための科目として位置付け、カリキュラム・ポリシーやアドミッション・ポリシーに掲げています。

音楽基礎科目認定テストは、その中の「ソルフェージュ」「楽典」「鍵盤楽器」についてテスト受験時点での習熟度を確認し、その後の学習につなげることを目的として行われます。

◎入学者選抜

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部の入学者選抜は、総合型選抜（10月実施）、学校推薦型選抜（11月実施）、一般選抜（2月実施）、後期総合型選抜（3月実施）です。

このうち**音楽基礎科目の試験が課されるのは、大阪音楽大学の一般選抜（2月実施）のみです。**音楽基礎科目認定テストで認定を取得済みの人は、一般選抜において当該科目の試験が免除になります。一般選抜に必要な音楽基礎科目は下表のとおりです。

・下記の内容は2027年度入学者選抜のもので、次年度以降変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

一般選抜に必要な音楽基礎科目	音楽クリエイター専攻	なし			
	ミュージックコミュニケーション専攻	なし			
	ミュージックビジネス専攻	なし			
	声楽専攻	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	
	ピアノ専攻	ソルフェージュ	楽典	—	
	管楽器専攻	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	
	弦楽器専攻	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	
	打楽器専攻	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	
	ギター・マンドリン専攻	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	
	邦楽専攻	なし			
	ジャズ専攻	ピアノ	ソルフェージュ	楽典	—
		ピアノ以外	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器
	ポピュラーエンターテインメント専攻	なし			

大阪音楽大学短期大学部の入学者選抜では、音楽基礎科目は課しません。

◎入学前教育

総合型選抜と学校推薦型選抜では音楽基礎科目の試験は課ませんが、音楽基礎科目認定テストで認定を取得済みの人は、総合型選抜と学校推薦型選抜の合格者を対象に行われる音楽基礎科目に関する入学前教育が終了していると見なします。

音楽の基礎能力を身につけることは、専門実技を学ぶ上で理解を深め、表現力を高めることにもつながります。一般選抜を受験しない人も、ぜひこのテストを活用し、認定取得をめざしましょう。

実施概要

◎ テストの受験対象者

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部への進学を目指す高校生以上、またはこれに相当する年齢の方。

◎ 実施科目

ソルフェージュ「旋律聴音」・「新曲視唱」…………… (P.7 参照)

楽典…………… (P.10 参照)

鍵盤楽器「ピアノ」または「電子オルガン」…………… (P.16 参照)

◎ 音楽基礎科目の認定について（一般選抜（大学））

音楽基礎科目認定テストを受験した結果、「ソルフェージュ」「楽典」「鍵盤楽器」の学修がそれぞれ大阪音楽大学への入学に必要な水準に達していれば、その科目ごとに「認定」とします。「認定」の有無により、一般選抜の受験科目は以下のようになります。（●＝受験科目）

≫ 一般選抜の受験科目

専攻	面接・調査書	専門課題	国語＋英語	ソルフェージュ	楽典	鍵盤楽器	※「認定」を取得している音楽基礎科目は受験免除
音楽クリエイター	●	●	●	－	－	－	※英検2級以上の検定に合格している場合、「英語」が免除されます。 ※大学・短大等を卒業（見込）の人は「国語」が免除されます。外国語1ヶ国語につき4単位以上修得していれば「英語」が免除されます。
ミュージックコミュニケーション	●	●	●	－	－	－	
ミュージックビジネス	●	●	●	－	－	－	
声楽	●	●	●	●	●	●	
ピアノ	●	●	●	●	●	－	
管楽器・弦楽器・打楽器	●	●	●	●	●	●	
ギター・マンドリン	●	●	●	●	●	●	
邦楽	●	●	●	－	－	－	
ジャズ（ピアノ）	●	●	●	●	●	－	
ジャズ（ピアノ以外）	●	●	●	●	●	●	
ポピュラーエンターテインメント	●	●	●	－	－	－	

※総合型選抜、学校推薦型選抜、後期総合型選抜では、音楽基礎科目は課しません。

※大阪音楽大学短期大学部の入学者選抜では、音楽基礎科目は課しません。

※上記の受験科目は2027年度入学者選抜のものです。次年度以降変更になる可能性がありますのでご了承ください。

高等学校音楽科・音楽コース、本学が認定した高等学校、短期大学の音楽科、大学の音楽学部を卒業または卒業見込みの方が大阪音楽大学（一般選抜）を受験する際、音楽基礎科目の試験はすべて免除となります。ただし、ご自身の学習のために当テストを活用してもかまいません。

受験のための手続き

≫ 受験登録・受験申込

≫ 音楽基礎科目認定テストの受験資格を取得するため、「受験登録」を行ってください。未登録の方は受験できませんのでご注意ください。

≫ 「受験登録」は初回受験時のみです。二度目以降この手続きは必要ありません。

◎ **対象者** 高校1年生以上、またはこれに相当する年齢の方。

◎ 登録料

巻末綴込みの「払込取扱票」で **5,000 円** を払い込んでください。

※ 郵便局備付の「払込取扱票」でもお支払いいただけます。

口座記号番号：00970-8-29217 加入者名：学校法人 大阪音楽大学

通信欄に「音楽基礎科目認定テスト受験登録料」とご記入ください。

「振替払込請求書兼受領証」(ATMで払い込んだ場合は「ご利用明細票」)を、『受験登録申請書』と『受験申込書』に必ず同封してください。受験登録料納入の確認ができない場合、受理できません。

◎ 受験登録・受験申込

初回受験時には『受験登録申請書』を届け出て「受験登録」をしてください。『受験登録申請書』は、巻末綴込みのもの、または大阪音楽大学 Web サイトよりダウンロード・印刷したものを送付してください。受験登録・受験申込については P.5 も参照してください。

【初回の場合】

上記のとおり、登録料を払い込んでください。



各テストの受付期限までに、『受験登録申請書』と『受験申込書』を届け出てください。提出方法は次の2通りです。

① **郵送…必ず郵便局窓口から特定記録で郵送してください。**

② **持ち込み…入試センター窓口**に直接持参してください。(受付時間：平日の 9:00～17:00)



受付期間終了後、「**受験登録証**」と「**受験票兼個人別時間割**」が送られてくる。

【2回目以降の場合】

受験登録、登録料は必要ありません。**受験料は無料**です。テスト実施回ごとに『受験申込書』を届け出るか、本学 Web サイトより申し込んでください。



『受験申込書』の提出方法は、次の3通りです。

① **郵送…必ず郵便局窓口から特定記録で郵送してください。**

② **Web…大阪音楽大学 Web サイトの申込フォーム**に必要事項を入力し、送信してください。(入学者選抜・オープンキャンパス→入学者選抜・認定テスト→音楽基礎科目認定テスト→申込フォーム)

③ **持ち込み…入試センター窓口**に直接持参してください。(受付時間：平日の 9:00～17:00)



受付期間終了後、「**受験票兼個人別時間割**」が送られてくる。

『受験申込書』提出後の受験科目・課題等の変更は一切認めません。

送付
持参先

〒561-8555 大阪府豊中市庄内幸町 1-1-8

大阪音楽大学 入試センター 音楽基礎科目認定テスト 係

(持参受付時間：平日の 9:00～17:00)



テスト実施日・申込受付期間

第 106 回テスト

2026 年 8 月 2 日(日) 実施

【受付期間：2026 年 6 月 16 日(火)～7 月 6 日(月) 消印有効】

第 107 回テスト

2026 年 12 月 27 日(日) 実施

【受付期間：2026 年 11 月 16 日(月)～12 月 1 日(火) 消印有効】

※入試センターへの申込書の持参は平日の 9：00～17：00 まで



テスト当日および結果について

◎受験上の注意

*テスト当日には、必ず『受験登録証』と『受験票兼個人別時間割』を持参してください。

*テストは、9:30～16:00 の間で実施する予定です。

*テスト当日の遅刻の取り扱いは次のとおりです。

【旋律聴音】【新曲視唱】【鍵盤楽器】…集合時刻に遅れると受験できません。

【楽典】…集合時刻より 10 分以上遅れると受験できません。

*「旋律聴音」「楽典」では、鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・定規の使用を認めます。

*音楽基礎科目認定テストは大学入学者選抜にもつながらる公正かつ厳正な認定試験です。万一、不正受験や虚偽の申告などがあった場合には、すべての試験が無効となり、すでに取得した認定と受験登録を取り消します。

*受験に際して特別な介助など配慮が必要な方は、あらかじめ申し出ください。

◎結果の通知

テスト結果は、テスト実施 1 週間後までに受験者宛に発送します。

10 日たっても届かない場合は、入試センター音楽基礎科目認定テスト係までお問い合わせください。

受験した科目の結果を、過去の受験結果と併せて次のとおりお知らせします。

【ソルフェージュ】認定 または 未認定

旋律聴音：グレード 1.2.3. を取得 または グレードなし

新曲視唱：グレード 1.2.3. を取得 または グレードなし

【楽典】認定 または 未認定

課題Ⅰ：修了 または 未修了

課題Ⅱ：修了 または 未修了

【鍵盤楽器】認定 または 未認定

受験登録申請書の記入方法

『受験登録申請書』と『受験申込書』は、巻末綴込みのものを切り離すか、本学 Web サイト*よりダウンロード・印刷したものを使用してください。

※入学者選抜・オープンキャンパス→受験対策する→音楽基礎科目認定テスト



◎受験登録申請書【記入例】

大阪音楽大学 音楽基礎科目認定テスト		写真貼付欄 4cm×3cm 正面脱帽 写真の裏に氏名を記入してください。	
受験登録 申請書 (本人自署のこと) <small>※印欄は記入しないでください。</small> 申請年月日 年 月 日			
フリガナ	ダイオン	ハヅミ	※登録番号
	(姓)	(名)	(西暦)
受験者氏名	大音	希	男・ <input checked="" type="radio"/> 女 2009年6月1日生
現住所	(郵便番号 561-8555) 大阪府豊中市庄内幸町1-1-8 電話 (06) 6334-2507 E-mail: info-nyushi@daion.ac.jp		
出身学校	所在地: 大阪 都・道(府)県 (国・都道府県・市・ <input checked="" type="radio"/> 立) 庄内 高等学校 (普通)科 在校生: 2年生 卒業生: 卒業		
備考	大学進学予定年	2027年4月進学予定	
	※削印	※登録	
●受験登録料(5,000円)を払い込み、「振替払込請求書兼受領証」を「受験登録申請書」と「受験申込書」に必ず同封してください。 ●申込人の手元を受領証が残らないので、「口座番号・加入者名・金額・払込月日・払込郵便番号」を記載しておいてください。 ●受験登録料納入の確認ができない場合、受理できません。 「振替払込請求書兼受領証」(または「ご利用明細票」)を同封し、確認のため記してください <input type="checkbox"/> 同封しました		大阪音楽大学 音楽基礎科目認定テスト 受験登録証 氏名 大音 希 男 2009年6月1日生 登録番号 [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] 上記の書は所定の手続きにより音楽基礎科目認定テスト受験登録されていることを証する。 発行: 大阪音楽大学 音楽基礎科目認定テスト事務局	

※印欄は記入しないでください。

- ◎記入例を参考に、黒ボールペンを使用し必ず受験者本人が記入してください。鉛筆書きは受付できないことがありますので注意してください。
- ◎同一の顔写真を2枚貼付してください。
- ◎受験登録証・時間割・結果通知の送付等、あらゆる連絡はこの『受験登録申請書』の記載事項に基づいておこないます。登録手続き後、変更が生じた場合はテスト事務局までお知らせください。
- ◎下部の『受験登録証』にも氏名・生年月日・性別を忘れずご記入ください。
- ◎受験登録料の「振替払込請求書兼受領証」を同封したことを確認し、をしてください。

登録後、次の場合は、テスト事務局までお問い合わせください。

- ・登録事項(住所、電話番号、学校等)に変更がある
- ・「受験登録証」を紛失した
- ・前回までの認定状況が分からない
- ・郵便物の氏名、住所等に誤りがある など

科目別実施要項 – ソルフェージュ –

◎実施内容

- * 「旋律聴音」・「新曲視唱」のテストを、それぞれ実施します。一度のテストで両方を同時に受験することも、どちらか一方を受験することも可能です。
- * 「旋律聴音」は P.8、「新曲視唱」は P.9 にそれぞれ出題内容を掲載しています。

◎実施方法

「旋律聴音」「新曲視唱」とも難易度によってグレード1・2・3の課題を設定しています。

≫ 「旋律聴音」

課題は、グレード1 → 2 → 3の順にピアノで演奏します。

例えばグレード1を取得している場合、グレード2・3（またはグレード2のみ）を解答してください。

≫ 「新曲視唱」

【グレード1・2】と【グレード2・3】のクラスに分けて実施します。受験申込の際に、どちらか一方の受験希望クラスを届け出てください。

なお、すでに取得したグレードの課題は受験できません。

◎認定

ソルフェージュの「認定」は、旋律聴音で取得したグレードと、新曲視唱で取得したグレードを組み合わせて決まります。

≫ ソルフェージュ認定表

新曲視唱 旋律聴音	グレード1	グレード2	グレード3
グレード1	未認定	未認定	認定
グレード2	未認定	認定	認定
グレード3	認定	認定	認定

グレードの数字の合計が4以上であれば、「認定」となります。

例：旋律聴音グレード2取得 + 新曲視唱グレード1取得 = 合計3 「未認定」

旋律聴音グレード1取得 + 新曲視唱グレード3取得 = 合計4 「認定」

ソルフェージュとしてすでに認定を取得している場合でも、既取得グレードより上位のグレードを受験することはできます。（例：すでに旋律聴音グレード2取得 + 新曲視唱グレード2取得 = 「認定」で、両方グレード3を受験する）

ただし、入学者選抜（一般選抜）で問われるのは認定の有無であり、取得グレードによる有利・不利は発生しません。

◎ 「旋律聴音」 出題内容

≫調性、拍子、小節数が示され、属七の和音・主和音と主音をピアノで与えます。

その後、下記の回数をピアノで演奏します。

[グレード1] 通奏1回 → 1～4小節を3回 → 通奏1回 → 5～8小節を3回 → 通奏1回

[グレード2・3] 通奏1回 → 1～4小節を3回 → 1～8小節を1回 → 5～8小節を2回 →

5～12小節を1回 → 9～12小節を3回 → 通奏1回

各課題の演奏終了後2分の時間をとります。

グレード1

≫ 出題内容

調性	C dur (ハ長調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	 など
その他	音階固有音および易しい変化音による平易なメロディー。

グレード2

≫ 出題内容

調性	グレード1の調に加えて G dur (ト長調)、F dur (ヘ長調)、a moll (イ短調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	グレード1の内容に加えて  など
$\frac{6}{8}$	 など
その他	音階固有音および易しい変化音によるメロディー。

グレード3

≫ 出題内容

調性	グレード2の調に加えて D dur (ニ長調)、B dur (変口長調)、e moll (ホ短調)、d moll (二短調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	グレード2の内容に加えて  など
$\frac{6}{8}$	グレード2の内容に加えて  など
その他	属調・下屬調の属七の和音などによる変化音が加わります。

◎ 「新曲視唱」 出題内容

≫試験方法：試験場外で、1課題につき30秒の予見時間を与えます。試験場で、歌う前に属七の和音・主和音と開始音をピアノで与えます。ド・レ・ミで歌ってください。唱法は移動ド・固定ドいずれでもかまいません。移調が必要な人は試験の際に申し出てください。

グレード1

≫ 出題内容

調性	C dur (ハ長調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	 など
その他	音階固有音および易しい変化音による平易なメロディー。

グレード2

≫ 出題内容

調性	グレード1の調に加えて G dur (ト長調)、F dur (ヘ長調)、a moll (イ短調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	グレード1の内容に加えて  など
$\frac{6}{8}$	 など
その他	音階固有音および易しい変化音によるメロディー。

グレード3

≫ 出題内容

調性	グレード2の調に加えて D dur (ニ長調)、B dur (変口長調)、e moll (ホ短調)、d moll (二短調)
拍子	リズム
$\frac{4}{4}$ または $\frac{3}{4}$	グレード2の内容に加えて  など
$\frac{6}{8}$	グレード2の内容に加えて  など
その他	属調・下属調の属七の和音などによる変化音が変わります。

科目別実施要項 — 楽典 —

◎実施内容

- * 記譜法・楽語・音程・音階・調・和音・西洋音楽基礎知識等に関する筆記テストです。出題内容によって【課題Ⅰ】と【課題Ⅱ】の2つの課題を設定しています。受験申込の際にどの課題を受験するか届け出てください。一度のテストで【課題Ⅰ】と【課題Ⅱ】の両方を受験することもできます。
- * すでに修了した課題は受験できません。
- * 試験時間は【課題Ⅰ】が30分間、【課題Ⅱ】が40分間です。

◎出題範囲

≫【課題Ⅰ】

下記の各項目に関する理解を問います。実作品の楽譜によって出題されることが多いので、日頃から楽譜には注意深くていねいに接するよう心掛けてください。

●記譜法 ●楽語 ●音程 ●音階と調（基本的なもの） ●移調 ●音楽基礎知識（作品、作曲家、年代等、音楽基礎知識の出題範囲はP.11～P.15に掲載しています）

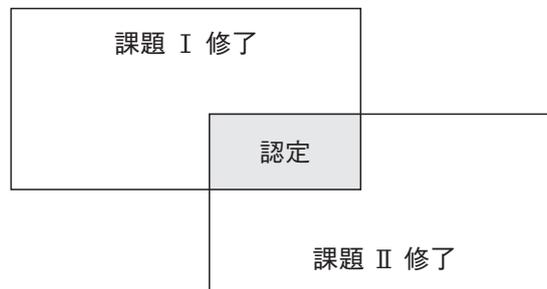
≫【課題Ⅱ】

下記の各項目に関する応用的な内容を問います。鍵盤図に基づいて出題されることが多いため、異名同音に関する項目（異名同音的転換、異名同和音等）に充分習熟し理解を深めておいてください。

●音程（異名同音的転換による音程を含む） ●音階と調 ●調の関係 ●和音（楽譜による響きの種類の判定を含む） ●調判定課題

◎認定

課題ごとに採点し、修了・未修了の判定をおこないます。【課題Ⅰ】と【課題Ⅱ】の両方を修了することによって「認定」となります。



- ※受験結果は蓄積されますから、【課題Ⅰ】と【課題Ⅱ】を同時に修了する必要はありません。
- ※すでに「認定」を取得している場合は、再受験できません。

◎楽典・音楽基礎知識 出題範囲

単旋律による音楽から20世紀の音楽にいたる長い歴史のなかで、西洋音楽の世界は、時代によってその姿を様々に変化させ、数えきれないほど多くの作曲家が作品を生みだしてきました。音楽を学ぶものにとって、これらについてできるだけ豊かな知識を持つことが大切なことは言うまでもありません。

しかし、受験生の皆さんにとって、大学に入学する以前に、多くの時代や、作曲家、作品についての知識を身につけ理解することは、決してやさしいことではありません。

そこで、音楽基礎科目認定テストでは「楽典」のなかの音楽基礎知識として、とりあえずこれだけは知っておいてほしい三つの時代と主な作曲家に限定して、彼らが

◎どのような時代に活躍したか

◎どのような作品を生み出したか

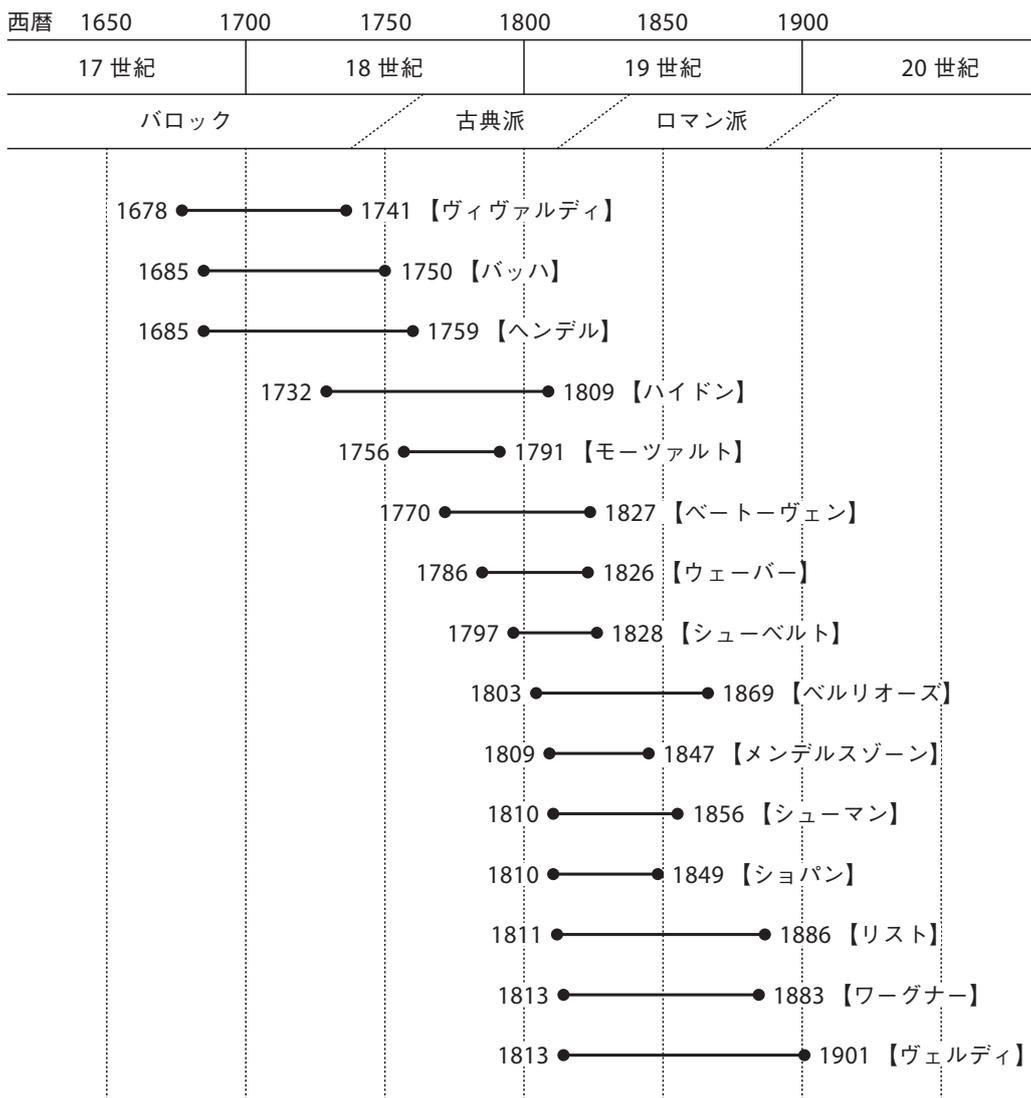
◎活躍した時代の音楽の特徴はどのようなものであるか

◎活躍した時代に作曲されていた主なジャンルにはどのようなものがあるか

などを勉強して頂くことにしました。

テストでは、以下にまとめた基礎知識をこえない範囲を課題Iで出題します。第104、105回の出題(P.28、P.29、P.31、P.32)を参考に準備してください。

ここに掲げられた作品を参考に、できるだけ多くの作品に耳を傾けるなど自らの音楽に関する知識の幅を広げてください。



◎楽典・音楽基礎知識 出題範囲

バロック時代（1600年頃～1750年頃）

≫様式の特徴

オペラ（歌劇）やオラトリオ（宗教的な題材に基づく、独唱、合唱、管弦楽を用いた大規模な劇的作品。ただし、オペラのような演技や舞台装置はともなわない）など、歌詞の内容表現が重視される音楽の誕生にともない、語るような旋律（レチタティーヴォ）を和声的な伴奏で支える様式が発生し、そこからバロック音楽の最も重要な根幹となった通奏低音と呼ばれる技法が発達しました。

通奏低音の楽譜は一般的に一本の低音旋律線とその下に付けられた数字や記号からなっていますが、即興的に右手で和音を補って弾くチェンバロと呼ばれる鍵盤楽器とチェロなどの低音旋律楽器で奏されます。この技法に基づく音楽には、一つの楽章ないしはまとまりのなかでは突発的な変化がなく、一定の情緒が表現されるという特徴があります。

≫主な音楽ジャンル

声楽の分野では、オペラやオラトリオ、カンタータなど、歌詞内容とその音楽的表現が重視される音楽が生まれ発展しました。

器楽の分野では、協奏曲、組曲、ソナタなどが多く作られるようになり、徐々に勢いを増してきます。

主な作曲家の生涯とその作品

■ヴィヴァルディ（1678～1741）

イタリアの水の都ヴェネチア（ヴェニス）で生まれ、その地で活躍しました。特にバロック時代の独奏協奏曲の基礎を築き、ヴァイオリン奏法の進歩にも貢献しました。多くの作品を残しましたが、中でもヴァイオリン協奏曲集「四季」は有名です。

■バッハ（1685～1750）

ドイツの地方都市、アイゼナッハで生まれ、ドイツの様々な地で教会音楽家あるいは宮廷音楽家として活躍しましたが、晩年は、ライプチヒの聖トーマス教会カントル（合唱長）として多くの宗教作品を生み出しました。

主な作品は、マタイ受難曲や教会カンタータなどの宗教作品のほか、ブランデンブルク協奏曲（6曲）や管弦楽組曲（4曲）、オルガン（トッカータとフーガ 二短調）やチェンバロのための作品（イタリア協奏曲）など、多くの器楽曲があります。

■ヘンデル（1685～1759）

ドイツのハレで生まれましたが、イタリアでオペラの勉強をした後にイギリスにわたり、その地に帰化しました。

ヘンデルというと、組曲「水上の音楽」が特に有名ですが、彼の本領はむしろ声楽の分野であり、「メサイア」をその代表作とするオラトリオや、今ではあまり上演されなくなっているオペラに優れた作品を生み出しました。

◎楽典・音楽基礎知識 出題範囲

古典派時代 (1750 年頃～ 1820 年頃)

≫様式の特徴

この時代になると、バロック時代の通奏低音技法から生まれる、コンスタントな感情表現に基づく音楽から、人間の自然な感情と理性のバランスが絶妙な音楽へと変化しました。この変化は音楽を聴く人々の中心が、王侯貴族から市民階級へと変わったことに大きくおっています。そして、このダイナミックな音楽を表現する形式として、ソナタ形式が生み出され完成されました。

≫主な音楽ジャンル

この時代は、バロック時代に生まれたオペラや協奏曲などが、モーツァルトなどによってまさに近代的なジャンルへと発展したのを始め、器楽分野が大きく進展しました。交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノ・ソナタなどはその代表的なものです。

主な作曲家の生涯とその作品

■ハイドン (1732～1809)

オーストリアの小村ローラウに車大工の息子として生まれました。その音楽的才能から、ウィーンの聖シュテファン大聖堂聖歌隊員となり、その後晩年の一時期を除いて、生涯の大部分を、ハンガリーの大貴族、エステルハージー侯爵の宮廷楽長として過ごしました。彼はソナタ形式を完成に導いたことで知られています。そのことは、「ひばり」「皇帝」などと呼ばれる弦楽四重奏曲や「驚愕 (びっくり)」「時計」と呼ばれる交響曲など、彼が最も得意とした分野で確かめることができます。

■モーツァルト (1756～1791)

オーストリアのザルツブルクで、宮廷音楽家の息子として生まれ、6歳で作曲を始めるほどの天才でしたが、わずか35歳でウィーンで亡くなりました。その短い生涯にもかかわらず、天才的な作品を多数生み出しました。特にオペラの分野は傑出しており、「フィガロの結婚」や「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」は今でもよく上演されます。また第41番「ジュピター」に代表される交響曲や、ピアノや管弦楽器を独奏とする協奏曲、様々な編成による室内楽曲やピアノ・ソナタなども重要です。

■ベートーヴェン (1770～1827)

ドイツのボンで宮廷歌手の息子として生まれましたが、22歳のときウィーンに出てそこで生涯を終えました。少年時代を除くと宮廷に仕えることはせず、自分は王侯貴族などと同等以上の価値をもつという、いわゆる近代的な芸術家意識を持って活躍した最初の作曲家です。彼の作品はおよそ3期に分けることができますが、激しい闘争精神とダイナミックな形式を用いた中期の作品、例えばピアノ・ソナタ第23番「熱情」や交響曲第3番「英雄」、第5番「運命」、第6番「田園」、また「ラズモフスキー」と名づけられた第7～9番の弦楽四重奏曲などは、特によく知られています。

◎楽典・音楽基礎知識 出題範囲

ロマン派時代（1820年頃～1900年頃）

≫様式の特徴

古典派時代は、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンという三人の作曲家で、その時代の様式をおおよそ概観することができましたが、ロマン派時代は実に多様で複雑な様相を示しています。ただその多岐にわたるジャンルや作曲家をこえて、一つの共通した要素も見いだせます。それは19世紀になると、古典派時代にみられた理性と感情のバランスが崩れ、作曲家自身の感情や主観の表現が、より強く打ち出されることになったということです。

そのため古典派の時代にはみられなかった音楽の作り方や、ジャンルが登場することになりました。例えばある特殊な心の状態などを描き出すために、物語や詩、その他様々な音楽以外の要素が音楽のなかに取り込まれたり（標題音楽、交響詩）、和声に機能以外の色彩的な効果を強く求めたり、管弦楽も規模や編成などが、より拡大され多彩となりました。ピアノの世界では、華麗なテクニックで聴衆の人気を獲得するものが生み出される一方で、ソナタのような構成的にがっちりした大曲よりも、性格的小品と呼ばれる曲種が好まれ、民謡風の単純な旋律や、異国風的情緒を巧みに取り入れながら、作曲家の個人的な世界を主観的に綴る作品が数多く生み出されました。

またロマン主義の総合的性格から、文学、演劇、美術、音楽が一体となったオペラにも多くの関心が向けられ、古典派のものとは違った巨大な作品が、ドイツやイタリアを中心に生み出されることになりました。

主な作曲家の生涯とその作品

ロマン派の時代はわずか100年に満たない短い時代ですが、その間に数えきれない多くの作曲家と多様な作品を生み出しました。ここではとりあえず1810年頃までに生まれた主な作曲家と、そのごく主要な作品のみに限定することにしました。

まず最初は**シューベルト (1797～1828)** です。彼は多くの器楽曲も生み出しましたが、何よりもドイツ・リートの世界を成熟したものと高め、古典派の三巨匠を補う役割を果たしました。そのことから彼を単純にロマン派と位置づけない考え方もあります。

しかし「美しい水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」のいわゆる三大歌曲集は、ドイツロマン派リートの出発点となったことは間違いなく、今なお多くの歌手たちの最も重要なレパートリーとなっています。

シューベルトとほぼ同時代に活躍した**ウェーバー (1786～1826)** はドイツ国民オペラの創始者として忘れられない存在です。彼のオペラ「魔弾の射手」は、古典派のオペラとは全く異なった質を備え、ドイツロマン派の幕を切って落とすことになりました。

フランスに生まれた**ベルリオーズ (1803～1869)** は、自らをベートーヴェンの後継者と認め、「幻想交響曲」で標題交響曲の在り方と、豊かな色彩感を持った管弦楽法の確立に貢献しました。

1810年前後には、重要な作曲家が数多く生まれました。1809年に生まれた**メンデルズゾーン (1809～1847)** は、ロマン派のなかでは古典的の作風を持つ作曲家として知られていますが、「ヴァイオリン協奏曲」ホ短調や序曲「フィンガルの洞窟」、交響曲第3番「スコットランド」等には、甘い旋律と感傷的な雰囲気が漂っており、やはりロマン派以外のなものでもありません。

1810年に生まれた**シューマン (1810～1856)** と**ショパン (1810～1849)** は、優れたピアノ曲を多く作曲したことで、忘れられない作曲家達です。歌曲や交響曲、室内楽にも優れた作品を数多く残したシューマンですが、特に20歳代のピアノ作品、例えば「子供の情景」や「謝肉祭」などの性格的小品を集めた曲集には、詩的な雰囲気とひらめきに満ちた繊細で情熱あふれる世界が展開されており、典型的なロマン派の音楽といえるでしょう。ショパンは、その生涯をほとんどピアノ作品だけにかけての珍しい作曲家です。ピアノという楽器にしか表現できない世界を見事に展開する「12の練習曲（作品10および25）」「24の前奏曲」「バラード（4曲）」「ポロネーズ（16曲）」などの作品は、ロマン的な情緒や情熱と、極めて高いピアニスティックな技術が絶妙なバランスをとっており、今もコンサートに欠かせないものです。

自身当時最高のピアニストのひとりであった1811年生まれの**リスト (1811～1886)** は、例えば「ハンガリー狂詩曲（19曲）」や「超絶技巧練習曲（12曲）」など、この時代の特徴の一つである、巨匠的な技術をもつピアノ作品で知られています。しかし、いわゆる交響詩を確立した作曲家としても重要で、交響詩「前奏曲」などが、その代表作です。

器楽曲にはほとんど手を付けず、その生涯をオペラに捧げたのが1813年に生まれた**ワーグナー (1813～1883)** と、**ヴェルディ (1813～1901)** です。ワーグナーは、中世の伝説に多くの題材を求め、自ら台本を書き、演劇や美術、音楽等が一体となった、まさに総合芸術と呼ぶにふさわしい「楽劇」と呼ばれるジャンルを創始しました。代表作としては、「トリスタンとイゾルデ」、序夜と三夜からなる「ニーベルングの指環」などがあります。また、ヴェルディは、イタリア・オペラを代表する多くの作品を生み、「リゴレット」「椿姫」「アイダ」「オテロ」などは今もさかんに上演されています。

科目別実施要項 — 鍵盤楽器 —

◎実施内容

- * 「ピアノ」または「電子オルガン」の基礎的なテクニックのテストです。
 受験申込の際にどちらで受験するかを届け出てください。
 *すでに「認定」を取得している場合は再受験できません。

◎出題内容（課題曲）

≫【ピアノ】

次の「ソナチネ」または「ソナタ」の中から1曲選択し、第1楽章を反復は省略して暗譜で演奏してください（版の指定はありません）。

ソナチネ		ソナタ	
KUHLAU (クーラウ)	Op.20 No.1	HAYDN (ハイドン)	Hob. XVI :35
	Op.20 No.2		
	Op.20 No.3		
	Op.55 No.1	MOZART (モーツァルト)	K.545
	Op.55 No.2		
	Op.55 No.3		
CLEMENTI (クレメンティ)	Op.36 No.1	BEETHOVEN (ベートーヴェン)	Op.49 No.1
	Op.36 No.2		
	Op.36 No.3		
	Op.36 No.4		
	Op.36 No.5		
	Op.36 No.6		
DUSSEK (デュセック)	Op.20 No.1		

≫【電子オルガン】

(A) ~ (C) の中から1曲を選択して、暗譜で演奏してください。音色設定のためにUSBフラッシュメモリーを使用してください。

(A) アイルランド民謡	森本友紀 編曲	ロンドンデリーエア
(B) カバレフスキー	土田泰子 編曲	四つのロンド op.60 より トッカータ
(C) ゴセック	森宏 編曲	ガボット

電子オルガンの機種：YAMAHA ELS-02C、ELS-03X / Roland AT-800

その他の機種で受験希望の場合は、受験申込期間の開始前に「音楽基礎科目認定テスト事務局」へお問い合わせください。

電子オルガンの楽譜は音楽基礎科目認定テスト事務局に請求してください。テスト登録者のみ貸与します。住所・氏名・電話番号・希望楽譜（何曲でも可）を明記のうえ、FAX・E-mailにて、下記へお送りください。

送付先 大阪音楽大学 音楽基礎科目認定テスト事務局
 FAX : 06-6336-4428 E-mail : info-nyushi@daion.ac.jp